

【小学校・ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動】

地域の素材や人材を生かし、地域に誇りを持てる J R C 活動

島根県温泉津町立温泉津小学校

— 学 校 の 概 要 —

学校規模

学級数：7学級（内特殊学級1学級）

児童数：94人

教職員数：13人

体験活動の観点からみた学校環境

温泉津町は、地理的には島根県のほぼ中央部に位置し、人口約4千人。近年、過疎・高齢化が急速に進んでいる。

校区には、温泉津温泉街、温泉津駅周辺の商業住宅地域、農村地帯が含まれ、様々な体験活動が可能である。また、学校教育活動に対して協力的である。

世界遺産暫定リストに掲載された石見銀山の積出港として繁栄した歴史を持ち、温泉津焼に代表される伝統工芸や御日待祭りなどの伝統行事が受け継がれている。

児童の実態として、地域の豊かな環境の中で明るく素直に育っているが、地域の方と交流する機会が少なく、自分達の住んでいる地域についても学ぶ機会が少ない。そのため地域の素材を取り上げ、地域の人材を活用した教育活動を進めたいと考えている。

連絡先

〒699-2511

島根県温泉津町温泉津小浜イ280-1

電話：0855-65-2064

FAX：0855-65-2394

電子メール：yunotsu@sx.miracle.ne.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

活動のねらい

自分や自分以外の人達の心と健康を大切にし、安全な生活を心がける。

自分が今、他の人のために何ができるか考え、行動する。

日本の仲間はもちろんのこと、外国の人やその国のことを正しく理解して交流を深め、仲良く助け合う。

主な活動内容・方法(位置付け・期間)年間を通じ、全学年で活動を展開

ゴミ0奉仕活動(学校行事3)

校内トレセン(夏季休業中出校日)

廃瓶・アルミ缶回収(夏季休業中・日曜日のボランティア活動)

「湯の郷苑」訪問(学校行事2)

国際交流集会(児童会活動2)

8の日奉仕活動(業間ボランティア)

体制等の工夫

可能な限り、家庭や地域の関連機関と連携して活動を展開

活動の成果等

地域の多くの方とふれあえ、思いやりの心や奉仕の心が育ってきた。

地域と連携した活動を多く取り入れることで、地域の方が気軽に来校されるようになり、地域の人材を活用した教育活動が展開できるようになった。

J R C 活動と関連させた様々な総合的な学習を構想し、実践することが可能となった。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ア 自分や自分以外の人達の心と体の健康を大切にし、安全な生活を心がける。(健康安全)
- イ 自分が今、他の人のために何ができるか考え、行動する。(奉仕)
- ウ 日本の仲間はもちろんのこと、外国の人やその国のことを正しく理解して交流を深め、仲良く助け合う。(国際理解・親善)

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「温泉津小学校」JRC活動」

イ 実施学年

本校のJRC(青少年赤十字)活動は、年間を通じて、基本的に全学年で取り組む。

ウ 活動内容

JRC登録式：赤十字の創立者であるアンリー・デュナンの誕生日に、新しく温泉津小学校JRCに加わる1年生の登録を行うとともに、本年度の活動について説明する。

ゴミ0奉仕活動：温泉津海岸や浜田川・温泉街の清掃奉仕作業を、地域の方と連携して行う。また、集めた不燃物を分別処理する。

校内トレセン：漁業組合の協力で、サザエやアワビなどの貝採りや海水浴などの自然体験活動を行う。また、日本赤十字社島根県支部や西部消防署の協力で、水難救助法・人工呼吸法などの学習を行う。

廃瓶・アルミ缶回収：校区内の全家庭に呼びかけてリサイクルできる空き瓶やアルミ缶を提供してもらい、保護者や教職員とともに子ども達が回収作業を体験する。また、集めた空き瓶やアルミ缶を業者に引き取ってもらい、ネパールに学校を建てる運動に協力する。

ふれあい交流学習：児童の祖父母や高齢者学級の方と、竹細工や将棋・お手玉作り折り紙・手打ち蕎麦作り・グランドゴルフなどの活動を通じて交流を深め、お年寄りの方の持つ知識や生活体験を学ぶ。

「湯の郷苑」訪問：低学年と高学年に別れて特別養護老人ホーム「湯の郷苑」を訪問し、高齢者の方と交流活動を行う。

年賀状書き：校区内にお住まいの75歳以上の一人暮らしの方に、年賀状を書いて送る。

国際交流集会：校区内に住んでいる外国出身の方や、国際交流員として来県している外国の方を招待して、国際交流集会を行う。

8の日奉仕活動：毎月8日に、学級ごとに校舎内外の清掃活動や花壇の整備などの環境美化活動を自主的に行う。

朝のボランティアサービス活動：4～6年生が縦割り班に分かれ、集団登校後に昇降口や中庭掃除など、自分たちで気づいた奉仕活動を教職員と一緒にやる。

エ 教育課程上の位置付け

JRC登録式：児童会活動

ゴミ0奉仕活動：学校行事

校内トレセン：夏季休業中の出校日

廃瓶・アルミ缶回収：夏季休業中の出校日，日曜日のボランティア活動

ふれあい交流学習：児童会活動

「湯の郷苑」訪問：学校行事

年賀状書き：国語

国際交流集会：児童会活動

8の日奉仕活動：業間のボランティア活動

朝のボランティアサービス活動：朝のボランティア活動

オ 実施時期（期間・日数・時間数）

JRC登録式：5月8日 1時間

ゴミ0奉仕活動：5月30日 3時間

校内トレセン：7月20，21日 8時間×2日×1泊

（学校で宿泊し，様々な体験活動を行う）

廃瓶・アルミ缶回収：8月第4日曜，1月第3日曜 2時間×2日

ふれあい交流学習：10月 2時間

「湯の郷苑訪問」：12月（1～3年），1月（4～6年） 各2時間

年賀状書き：12月 1時間

国際交流集会：2月 2時間

8の日奉仕活動：毎月8日 業間

朝のボランティアサービス活動：毎朝（集団登校後，始業前に）

カ 活動場所（校外で活動を行うもの）

ゴミ0奉仕活動：温泉津小学校校区（浜田川，温泉津温泉街，温泉津海岸など）

校内トレセン：日祖海岸

廃瓶・アルミ缶回収：温泉津小学校校区全域

「湯の郷苑」訪問：温泉津町福波地区にある特別養護老人ホーム

8の日奉仕活動：小学校周辺

キ 継続の状況

毎年，児童総会で行う子どもたち自身の反省や教職員の学校評価をもとに，JRC活動の内容について検討を加え，改善を図ってきた。今後も温泉津小学校の特色ある活動として，地域と連携しながら，実践を重ねて行きたい。

2 活動の実際

ここでは，数多くのJRC活動の中から，ゴミ0奉仕活動と校内トレセンについて紹介する

（1）ゴミ0奉仕活動

ア 事前指導

温泉津小学校のJRC活動は，昭和27年（1952）に加盟以来の長い伝統を誇っている。小学校では5月30日を「ゴミ0の日」と呼び，毎年この日前後に，地域の清掃奉仕活動を行う。平成11年度からは，町並み保存会や浜



〔浜田川の清掃活動〕

田川清流会・温泉津警察署と連携して清掃奉仕活動を行っている。活動の前に、学級で清掃活動を行う場所や方法について話し合い、同時にゴミ分別収集に関する学習を実施する。

イ 活動の展開（平成13年度）

6月2日（土） 9時30分

学年ごとに清掃場所へ出発

- | | |
|-------|--------------|
| 1年生 | 学校周辺・国道9号線沿線 |
| 2年生 | 小浜地区住宅街 |
| 3年生 | 温泉津温泉街 |
| 4・5年生 | 温泉津海岸 |
| 6年生 | 浜田川 |

11時 不燃物ゴミを収集して帰校

小学校でゴミの分別作業



〔小学校での分別作業〕

温泉街では町並み保存会の方と、温泉津海岸では警察署の方と、浜田川清掃は清流会の方と一緒に奉仕活動を行った。

ウ 事後指導

ゴミ0奉仕活動を通して、子どもたちは地域の環境を守ることの大切さを学ぶ。特に、海岸や川・道端に投げ捨てられた数多くの空き缶を回収し、それらが資源としてリサイクルできることを学ぶことで、夏季と冬季に全校で行う空き瓶やアルミ缶回収への意欲付けになっている。

平成13年度からは、アルミ缶の回収活動を日常活動に位置付け、業者に引き取ってもらったアルミ缶代金を、ネパールに学校を建てる会に寄贈している。

また、総合的な学習の一環として「浜田川探検隊」という川を素材とした単元を構成したり、温泉津温泉街の町並み保存運動を取り上げた社会科の授業を実践したりしている。

（2）校内トレセン

ア 事前指導

毎年、一学期終了とともに行う一泊二日の校内トレセンを、子どもたちはとても楽しみにしている。校内トレセンの計画は、参加する4年生から6年生の児童を対象に児童会活動の中で総務委員会が事前アンケートを行い、それをもとに担当教員と協力して立案する。6年生が「しおり」を作製した後に事前説明会を開いて各班ごとに分担する係を決めるなど、子どもたちの主体性を重視して校内トレセンの準備を進めるため、活動意欲は極めて高い。

イ 活動の展開

（ア）活動の場や施設

4年生から6年生までの子どもたちと校長、担任、養護教諭ほか全教職員が、小学校に泊まりこんで校内トレセンを行う。活動においては学校内の施設を使用するが、海の体験活動は日祖海岸^{ひそ}で実施している。

（イ）活動プログラム

校内トレセンの内容は子どもたちの希望を尊重して計画するため、毎年変わっている。ここでは、平成13年度のプログラムを紹介する。

7月20日（金）第1日目 海の日

9時30分～11時00分 水難救助法講習会（全校児童と保護者が参加）

13時10分	荷物を持って小学校に集合，その後，日祖海岸へ移動
13時30分～15時30分	開校式 海の活動（海水浴・サザエやアワビなどの貝採り体験）
15時30分	学校に移動，宿泊できるように教室の模様替
17時00分～19時00分	炊飯活動（カレー作り）
19時15分～20時00分	球技大会 小学校で宿泊

7月21日（土）第2日目

6時40分	起床，ラジオ体操，朝食，片付け
9時00分	閉校式

（ウ）指導者・協力者

水難救助法講習会は，西部消防署から講師を派遣してもらって実施した。海の活動については，温泉津町漁協からサザエやアワビの採取許可を得，漁船を出していただいた。児童の輸送や監視については，保護者の全面的な協力を受けた。

また，事前に日祖海岸の安全調査を実施したり，子どもたちを泳力別に少人数グループに編成するなど，安全面に特に配慮している。



[日祖海岸での海の活動]

ウ 事後指導

本校では，水泳指導に力を入れており，4年生以上になると全員が25m以上の泳力を身につけ，個人メドレーができる子どもも多い。しかし，プールで泳ぐ機会が多くなった反面，子どもたちの目の前にある海で泳ぐ機会は少なく，漁業権の問題もあってサザエやアワビを採るといった体験をすることはほとんどない。そのため，校内トレセンの活動の中でも，海の活動に対する子どもたちの人気は極めて高い。

海で行った体験活動を生かして総合的な学習の時間に「わくわく探検隊 - 温泉津の港の研究」を行う，社会科の学習で地元の底引き網漁を取り上げる，石見銀山の外港として栄えた歴史について学ぶ，秋のスケッチ大会で温泉津港を題材に取り上げるなど，「海」を素材とした多くの授業を行っている。

3 体験活動のための体制

（1）学校の体制，家庭や地域・関連団体等との連携

本校のJRC活動は，児童会総務委員会を中心とする6つの委員会（4～6年生で構成）と1年生から6年生までの各学級及び全教職員が協力し，全校体制で取り組んでいる。活動内容によって，家庭や地域の各種団体と連携を取りながら実施している。

ゴミ0奉仕活動：町並み保存会，浜田川清流会，温泉津警察署と連携して活動

校内トレセン：漁業組合や保護者の協力で，貝採りや海水浴を行う。日赤島根支部や消防署の指導で，水難救助法・人工呼吸法などの学習を行う。

廃瓶・アルミ缶回収：校区内の全家庭に呼びかける。保護者・教職員といっしょに子どもたちが回収作業を行う。ネパールに学校を建てる会と連携

ふれあい交流学習：社会教育コーディネーターや高齢者学級と連携して交流内容を決

め、子どもたちの祖父母にも参加を呼びかけて実施

「湯の郷苑」訪問：低学年と高学年に別れ、「湯の郷苑」の方と交流活動を行う。

年賀状書き：町社会福祉協議会と連携し、高齢者の方に年賀状を送る。

国際交流集会：校区内の外国出身の方や国際交流員の方と交流活動を行う。

(2) その他

家庭や地域との連携を図るため、保護者や地域の方が学校に気軽に来校していただける環境作りに留意している。また、普段の授業においても、可能な限り地域の素材や人材を活用し、その成果を秋に行われる学習発表会や学校開放日の公開授業で紹介し、地域の方の理解を得るように努力している。

4 成果

- ・ 本校では、平成9・10年度に文部省の伝統文化教育推進事業の地域指定を受け、地域と連携した教育を推進した。JRC活動の実践でも、その際に築いた人的ネットワークを活用している。一連の活動を通して地域の多くの方とふれあうことができ、子どもたちに思いやりや奉仕の心が育ってきた。また、自分たちの住んでいる地域に対する愛着の念を育てることができた。
 - ・ 地域と連携した活動を多く取り入れることによって学校に多くの方が気軽に来校されるようになり、地域の人材を活用した教育活動が行えるようになった。
 - ・ JRC活動と関連させた様々な総合的な学習を構想・実践することが可能となった。子どもたちが体験活動を通して発見した課題について追究し、話し合う活動を取り入れることで、子ども同士の活発な発言が生まれ、課題追究力も少しずつ高まっている。
- JRC活動が子どもたちに浸透し、奉仕の心が育っているのが最大の成果である。

5 今後の取組の方向

- ・ 平成14年度から学校週5日制が実施されることもあり、一層地域と連携したJRC活動の内容を厳選していきたい。
- ・ JRC活動を、さらに日常化させていく必要がある。アルミ缶回収運動を常時活動に取り入れたように、朝のボランティアサービス活動や8の日奉仕活動などの常時活動を一層充実させたい。そして、「日常の中にJRC活動・奉仕の心のある学校」を目指したい。
- ・ 総合的な学習の時間にJRC活動が一層生かせるよう、JRC活動の教育課程における位置付けを見直すとともに、単元構成の仕方や地域講師との連携の在り方などを、全国の先進的な事例を参考にしながら研究を深めたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動はJRC活動として多様な活動が用意されている点に特色がある。活動事例としてあげられている「ゴミ0奉仕活動」では、事前に清掃場所・清掃方法についての話し合いを行ったり、事後にゴミが資源としてリサイクルできることを学習し、実際にアルミ缶を回収してネパールに学校を建てるために役立てる活動に結び付けている。同じく「校内トレセン」では、日赤島根支部や消防署の指導で水難救助法と人工呼吸法の学習を行ったり、漁協の協力を得てサザエやアワビなどの貝採りをはじめ地域の特色を生かした体験活動を行い、児童に思いやりや奉仕の心が育つなど多くの成果があがっているという。

このような活動を行うためには、事前・事後の準備とともに、専門家や地域の団体・機関などの協力を得ることが不可欠であり、特に海での体験活動では安全に十分に留意することが必要である。